

現金 87%が持ち主へ

東北3県届け出42億円

東日本大震災の津波は大量の現金も押し流した。東北三県を被災に届けられた総額は四十二億円のうち87%が持ち主のもとに戻った。東北の義理堅きを物語る一方で、一部では持ち去りもあった。金融機関では、被災した顧客のため支店独自の判断で現金を手払いした銀行も。力をめぐるさまざまな出来事を追った。(赤田千秋)

岩手県大船渡市の仮設住宅に暮らす山本ミヨ子さん(68)は震災から一カ月後、大船渡で自宅から流された金庫を戻した。金庫を戻した後は、若い職員二人が塩水で洗い付けた扉をため息をついて開け、一千万円を手にした。現金二種に記念炎封目、章広さんが自硬質がシャラシャラ出てくると一言の山本さん「おはよう、おはよう」



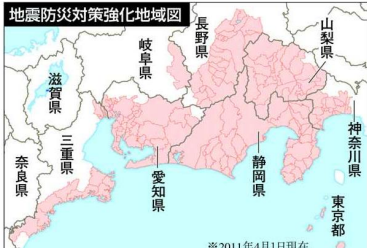
東北3県で届いた現金、金庫と所有者への返還率



津波で流された大量の現金が警察に届けられた岩手県大船渡市で。金庫を届けた。山本さんは「残高を十回大きな災害では人間を愛する人にも出てくるんですね」と返しに来た。沿岸部の人々は法律家だ。たに振り返る。人々の誠さは、自ら被災しながら手払いを続けた人々が頼るのが銀行員にとっても励みになっているという。

義理堅い気質反映 持ち去りも

震災直後、顧客に手払いを実施した岩手銀行の行員は緊急時対応マニュアルに基づいて行動した。大地震の発生に備え、東海地方の金融機関はどのような対応を想定しているのか。



東海の金融機関は?

「犯罪の手段に悪用される恐れがある」として匿名を条件に、愛知県内に本店を置く地方銀行が取材に応じた。この地銀は、停電などに伴って預金処理システムがダウンした場合、手払いを行う。通帳がなくとも印鑑があれば員外が印鑑を照合、払い出し額に制限はない。印鑑がないと顔写真入り身分証明書とキャッシュカードが必要で、払い出しは十万円に制限される。身分証明書もない場合は、住所氏名、電話番号を紙に記入。筆跡を口授確認時の書類と照合する。開設時の書類はコンピューターが使えない場合に備え、保管されているという。この地銀の現在のマニュアルでは、キャッシュカードがない場合は手払いを受け

払い出し 身分証・カード必要

東海地銀は予知の研究が盛んで、異常現象が重なる専門家判を経て首相が警戒宣言を発する。内閣府は一都七県の百五十七市町村を「地震防災対策強化地域」に指定。名古屋銀行協会によると、地域内の銀行は言が出る。ただし業務の停止と閉鎖が義務付けられている。客と行員の安全と預金の確保が第一という。閉鎖は警戒宣言解除まで続く。予知できなかった地震の発生時は各々が閉鎖を判断。近年は地震予知は難しい」といわれ、突然の地震発生に各銀行が対応を迫られる事象も予想される。

次回は12月19日掲載。津波警報について考えます。

志望校決定「運命の日」

11月20日投票の大熊町長選は、町への帰還を目指す現職と移住を訴える新人の一騎打ちだった。町の将来を担うはずの選挙はしかし、中途からその様相を変えた。「あの人はただの目立ちたがり」。新人候補の悪い噂が仮設住宅に広がり「安全策」で現職に票が流れた。「(現職勝利

は) 町民が帰還を望んだ結果じゃない」。少なくとも幸さんにはそう思えた。周囲が静けさを取り戻した2日後、今度は一家の「運命の日」が来た。沙也加さんの高校受験の三者面談。私立との併願を勧める担任に沙也加さんは言い切った。「行きたくない高校は受けたくありません」。担任も幸さんも折れるしかなかった。揺れ続けた思いは定まったらしい。すっきりした表情で勉強機に向かっているのは、仮設

原発1キロからの避難
いつの日か
—25—

住宅の薄い壁をつたってくる候補者の連呼が収まったからだけではないようだ。受験先はあこがれだった光一さんの母校。原発事故以降、県内各地に分散していたが、来年度からいわき市内に集約される。一家は抽選で確保した市内の仮設住宅に移る計画だが、高校から7～8キロと遠く、交通の便も悪い。幸さんは高校に近い仮設に変更できるか役場に相談したが、「無理ですね」と即答

された。意気消沈する幸さんに沙也加さんは諭すように言った。「世の中、そんなもんだよ」
【(はなわ)さん一家】 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(44)、次女沙也加さん(15)は愛知県豊田市で暮らした後、福島県会津若松市の仮設住宅に移った。長女梨奈さん(19)は東京で大学生生活。